

## BPA-Free は化学物質が含まれていない(だから安全)

という意味ではありません



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2018年3月29日(木) [SAFETY](#)

飲食料容器のラベルに注意を払うと、おそらく製品がBPAフリーであることを示すかなりのラベルをご覧になっているかと思います。しかしそれが何を意味し、またなぜラベルが貼られているのでしょうか？

BPAフリーラベルの蔓延は一部の製品メーカーがBPA製の材料を置き換えることに決めたり、或いはそもそも単にそれらを避けることを決めたりしたことを意味しています。その点でBPAフリーラベルの目的は、消費者への透明性というよりも、むしろ販売やマーケティングに関する意味合いがあります。BPAを含まない製品が何となく優れていると製造業者が消費者に思わせようとしているのでしょうか。

しかしBPAを置換える場合、BPAを他の何かに置換えなければならず、十中八九、別の化学物質に変更する必要があるでしょう。実際、代替品が元の物質よりも優れていることがどうやってわかるのでしょうか？ [最近のメディア記事](#)では、置換えがより良いと単純に考えることができない理由を説明する興味深いケーススタディが解説されています。

BPAから製造されているエポキシ樹脂は、50年以上に亘って多くの飲食料用缶の内面保護ライニングとして使用されてきました。金属缶の腐食や内容物の汚染を防止するためにライニングが使用されています。この用途にはエポキシ樹脂が優れていますが、極微量のBPA残渣が含まれている可能性があるため、現在では多くの製造業者が缶のライニングに他の化学物質を使用しています。

最近のメディア記事で報告されているように、アリゾナ州のワイナリーでは、最近、缶を開けたときに放つ「悪臭」のために、店舗の棚から新しい缶のスパークリングワイン製品

を取り出さなければなりません。その臭気は缶のライニングから発生する「腐った卵のようなツンとした臭い」と「硫黄やゴム」が混ざったような鼻をつくにおいと表現されました。

この記事では、ワイナリーがBPAを避けるために新しいタイプのライニングを使用した缶を使っていたことに注目しています。消費者がBPAについて聞く多くの偽りや消費者を扇動するようなニュース報道を考えると、製品メーカーがBPAベースの缶ライニングを置き換えたいと思うのは無理もありません。しかしこのケーススタディが明らかにしたように、BPAが不要になったのではなく、別の化学物質に置き換えられたに過ぎません。それが嫌な臭いであろうがなかろうが、その匂いをかいだり(あるいは味わったり)できたなら、化学物質が確実に存在することが確かめられます。

物質が違っているという理由だけで、代替品がより良いのか、あるいは安全であることがどのようにわかるのでしょうか。一般にBPAフリーラベルは、製品が**含んでいないもの**(つまり、BPAを含まない事)のみを示し、**実際に含まれているものは示さない**ので知る由もありません。ラベルは事実に基づいたものかもしれませんが、必ずしも完全で有用なものであるとは限りません。マーケティング上は非常に良いかもしれません。

BPAについてこれまでに実施された最大の研究である [CLARITY Core 研究の成果](#) について、米国の National Toxicology Program(NTP)が発表した最近の発表に照らして、これはむしろ皮肉なことです。その結果は私たちが一生涯BPAに曝露されても、有害である可能性はほとんどないことを示しています。米国食品医薬品局(FDA)の食品動物用医薬品部副長官 Steven Ostroff 博士(FDA)の [声明](#) に記されているように、「初期レビューでは、現在認められたBPA 使用法は、引き続き消費者にとって安全であると言う我々の決定を支持しました。」

缶詰製品の場合には、極微量のBPAを含んでいると言う理由で50年もの間、高性能な実績を保ち、安全であることが示されているエポキシ樹脂の保護コーティングを製造業者は置換えています。FDAがBPAは安全であると言っていることを考慮すると、例え代替品で悪臭がしないとしてもBPAを避けることに多くの意味があるとは思えません。